

●「私たちはどうやって働き方を変えたのか」
～家庭・地域で活躍する男たち～

- 講演内容まとめ
- 講演を聞いて
- 講師の著書紹介

●「最期まで自分らしく生きるために」を聞いて

- かがやくひと
- 編集後記
- インフォメーション

かがやけ地球



●●● フォーラム特集 ●●●

2市1町(藤沢市・茅ヶ崎市・寒川町)広域連携事業
共に生きるフォーラムふじさわ2015

トークイベント
「**私たちは
どうやって
働き方を
変えたのか**」

～家庭・地域で活躍する男たち～

「できれば子育てに関わりたい。
でも毎日残業続きでとても無理」
そんなあなたに!

仕事も家庭も子育ても
男だって欲張りしたい!

男性が変われば
社会が変わる!

仕事で成果を出しながら
家庭や地域で
活躍する
秘訣を教えます

藤 沢 市



講演会の様子

講師



サイボウズ株式会社
代表取締役社長

あおの よしひさ
青野 慶久氏

1971年生まれ。1997年愛媛県松山市に3人でサイボウズ株式会社を設立。社内制度においてもグループウェア活用によるワークスタイル

変革を推進し、多様な働き方を実現。自身も3児の父として3度の育児休暇を取得。



NPO法人
ファザーリング・ジャパン理事

かわしま たかゆき
川島 高之氏

1987年、慶応大卒、三井物産入社、現在は上場会社社長。小・中学校(元)PTA会長、イクメン関連のNPOファザーリング・ジャパン理事、子ども教育

関連のNPOコヂカラ・ニッポン代表でもある。

コーディネーター



あぶらひ ふみえ
油井 文江氏

ダイバーシティ・コンサルタント、中小企業診断士。

● ● ● ● ● 講演内容まとめ ● ● ● ● ●

🎤 青野 慶久氏

ITベンチャーを立ち上げて、過酷な働き方をずっとしてきたが、3人の子どもが生まれるたびに育児休暇を取得。自らの育児体験から、子どもの可愛さ、育児の大変さ、育児の大切さを実感した。子育ては未来創造であり、価値の高い仕事と気づいた。

社内では人事制度の改革を推進し、離職率を6分の1に低減させた。国内中堅企業の「働きがいのある会社」ランキングにて第3位に選出された。今や働きやすい職場でないと人材確保ができず、企業として生き残れない。

少子化が改善されない理由は、家庭を顧みずに働いてきた男性が出世して政治や企業のリーダーになっているから。彼らをイクボス化するのが課題だ。

働き方を変えるには、多様な働き方を支える「ツール、制度、風土」の3つが揃うことが要件である。

長時間労働から脱却するのに大事なものは、オンとオフの切り替え。限られた時間の中でいかに成果をあげるか。自身の例だと、今年1月に3人目が生まれ、半年間は16時までしか働かないと決めた。長時間労働していた時の半分。仕事の内容を見直し、短時間で成果をあげられるようモードを切り替えた。ぜひチャレンジしてほしい。

🎤 川島 高之氏

ワーク(しごと)は、総合商社系の上場会社社長。プライベート(自分ごと)では子育てや家事をシェアし、毎日家族の朝食と18歳の息子の弁当作りをしている。ソーシャル(社会ごと)では、小・中学校のPTA会長を歴任。少年野球のコーチや、NPOの代表も務める。この3本柱の生活が人生を豊かなものにし、私生活と社会活動の充実が仕事能力を高めてくれることがわかった。

会社では元イクメンの元祖イクボスとして、職場の労働時間を削減させながら、8割の増益を達成させた。

イクボスとは、職場の部下の生活とキャリアを応援し、組織の業績も結果を出しつつ、自らも仕事と生活を楽しむ上司、管理職、経営者のこと。所属するファザーリング・ジャパンでは、仕事一筋だった上司をこのイクボスにするための活動をしている。

ライフ時間を増やすためには、権利主張の前に職責を果たす、9回裏二死満塁という緊張感で仕事に臨むなど、仕事への取り組み姿勢を変えて成果を出す必要がある。

ワーク・ライフ・バランスは、会社が与えてくれるものではなく、自分から取りに行くもの。できない理由やグチを言うのをやめ、1%でもできる手段を考えていこう。

(有田 記)

2市1町
(藤沢市・茅ヶ崎市・寒川町)
広域連携事業
共に生きるフォーラム
ふじさわ2015

「私たちはどうやって働き方を変えたのか」

～家庭・地域で活躍する男たち～

2015年11月29日(日)、2市1町(藤沢市・茅ヶ崎市・寒川町)広域連携事業
「共に生きるフォーラムふじさわ2015」講演会を、藤沢市役所で開催しました。

●●● 講演を聞いて① ●●●

ここ数年マスコミを賑わせる「イクメン」。仕事に育児に大活躍のなんだかキラキラした存在、のような取り上げ方が多いせいか、一時的な流行りのひとつになってしまうのではないかと世のママたちは内心穏やかではなかったのだが、男性にとっての「イクメン問題」は育児を超え家庭を超え、人生に大きく関わる「リアル」となって企業を、そして国をも動かし始めていた。

本講演のタイトルは「私たちはどうやって働き方を変えたのか」であるが、サブタイトル「～家庭・地域で活躍する男たち～」の通り、青野氏・川島氏とも家事・育児をがっつりこなす日常について話した。その中で、両氏とも、仕事以外の経験におけるインプットが仕事でのアウトプットにいかにか有効かということを強調している。「なりゆき」「かわいい」から始めた育児・家事、それらにつながる地域活動を通してスキルや能力を身につけただけでなく、視野の拡がりや人脈の構築、ものの考え方の変化まで得たというのだ。その上、現実的な生活者目線こそ、多様化の進む現代社会で仕事をするのに不可欠であるとも言っている。

昨年の「共に生きるフォーラムふじさわ2014」では、竹信三恵子氏による「家事は誰がするもの?『家事ハラ』から見えた!HAPPYな生き方・働き方～」という講演が行われた。標準労働者像がケアレスパーソン



(ケア=育児や介護、家事労働=のない人)では日本の働き方・労働時間の問題は解決しないと竹信氏は話したが、まさに仕事人間だった男性が育児・介護、家事労働の意味を知り、積極的にケアする側へと変化をしようと言うのだ。

「流れは変わった。逆回転し始めた大きな車輪と一緒に押していきましょう」との言葉が力強く響いた。できないことをあげつらうのではなく、1%でも変えてみようとも。スーパーマンのようにも思えた両氏から最後に贈られた「共に進めよう」というエールに、会場全体が熱くなったように感じた。

(鈴木 記)



●●● 講演を聞いて② ●●●

文字通り働き盛りの40代、50代の男性ふたりがその生き方を伝授。青野慶久氏(40代)川島高之氏(50代)両講師、パワーポイントを操作しての説明が実にわかりやすい。後半のコーディネーター参加トーク時間を考慮しての指定時間内に納める術も見事だ。そして、何よりも驚愕したのは、おふたりの人生観だ。日本経済右肩上がり時代を築いた世代、その時代の女性は「オイ、フロ、メシ」の決まり文句に疑問を覚えるどころか、その決まり文句に応えようと家事育児の専業主婦業に勤しんで来た。今、目前の壮年男性は、育児をすることが宝なのだと言

う。家事や地域社会に参加することが自身を豊かにさせ、その結果が仕事にエネルギーを与えるのだとも。その為には働き方、会社でのあり方を変える。「ワーク・ライフ・バランス」という言葉の意味が納得できた。

両講師の話聴きながら、しみじみ思った。この世代が真の平和を築いてくれるのだろう。子育てや、家事に携われれば生命の貴重さと不思議さが理解できる。喜びも同時に味わえる。新時代がそこまで来たのだと実感した。〈男女共同参画〉とは、こういうことなのだ。今回の企画に参加できた幸運に感謝。(山口 記)

●●● 講師の著書紹介 ●●●

両講師の著書は、「ワーク・ライフ・バランス」の真髓が理解しやすく述べられていて一読を薦めたい。本題は少々奇抜だが読んで納得のいく本である。(山口 記)



『ちよいデキ!』

青野 慶久 著(文春新書)

起業から9年で東証一部上場にした著者が伝える生き方の知恵。(版元品切れ・藤沢市図書館所蔵)

青野 慶久氏の最新刊として、2015年12月に発行された「チームのことだけ、考えた。-サイボウズはどのようにして「100人100通り」の働き方ができる会社になったか」(ダイヤモンド社)がある。



『いつまでも会社があると 思うなよ!』

川島 高之 著(PHP研究所)

元祖イクボスによる上司の心得。ビジネスピープル向け実践本とあるが、生活者読本でもある。(書店で購入可能)

「最期まで自分らしく生きるために」を聞いて

2市1町(藤沢市・茅ヶ崎市・寒川町)広域連携事業の男女共同参画特別講演会が11月15日(日)寒川総合体育館で催された。「目から鱗が落ちる」の例え通り感動した。

講師・金子稚子氏が語る95分間は短すぎた。演題から推測していた哲学的人生観ではなく、彼女の体験(2012年夫・哲雄氏を在宅で看取る。享年41歳)をベースに介護、死、死後とそれらを取り巻く社会との関係を具体的に解りやすく語る。胸の熱くなる講演だった。(山口 記)



藤沢公民館のたくさんのサークル活動のひとつに、「エッセイを書く会」がある。公民館の講座から始まったサークルは、平成7年結成以来21年続いている。講師の八木先生と会員みなさんにお話を伺った。

藤沢公民館サークル エッセイを書く会のみなさん

発足当時から、現在まで、元新聞記者である八木先生の丁寧な添削と優しい言葉の中に厳しい視点をのぞかせる講評は、毎回会員たちの励みになっているそうだ。原稿用紙1枚400字に、ひとつの課題をまとめるのも文章力を高める方法のひとつだ。

講義の前半は、ひとり「まな板の鯉」と称して、他の会員たちの批評を一身に受ける。それぞれの会員たちの読后感の発表会だ。そこには、年齢の上下も、職場等での上下関係もなくみな平等だ。勿論、批評する側もまとめる力を養う勉強だ。八木先生の言葉はいつも、会員たちの個性を大事に、年齢、社会的地位等に関わりなく自由に書き、また、批評もするようということだ。

後半は、八木先生による会員たち、ひとりひとりの講評だ。ときには会員の失敗作でも、先生の机の上の原稿の写しは朱で真っ赤だ。何回も読んで丁寧に批評して下さるのだそうだ。

毎年公民館まつりの折に発行している作品集「ともしび」も21号をまとめた。表紙は多才な会員の別の分野の発表の場にもなる。趣味の域を超えた、美しい湘南の趣き豊かな写真を提供してくれる会員や、多くの書道展に出品作のある会員の美しい筆遣いの書、江の島沖を風をきって走る自作ヨットの写真の表紙もある。会員た



エッセイを書く会の様子

ちの趣味の多様さが素晴らしい。

現在15名の会員の半数は当初からの人たちだ。だから今では既に90歳をこえた方を筆頭にみな、80代から60代まで高齢だ。会員たちの書くエッセイは、戦前、戦中、戦後から現在までの生きた歴史そのものなのだ。また、各人の個性がとても面白く、素晴らしい。八木先生は、ご自身の貢献度を度外視されて、そんな会員たちの多くの体験談を楽しみに毎回、「エッセイを書く会」に来られると、目を細めてお話をくださった。そして最後に少し真顔になって、「私の方が教えてもらっているのです」と締めくくられた。

(甘粕 記)

エッセイを書く会

藤沢公民館

第2、第4 土曜日 10時～13時



- フォーラムに夫婦で参加していたワーママ&イクメンパパたち、素敵だね♡未来のイクボスに期待!(有田)
- 年齢を重ねると一年があっという間です。今年は昨年授かった孫と、楽しい、いい思い出づくりに励みます。(甘粕)
- 切らしたはずの調味料が棚の中に3瓶も。必要なのは隣にあるべきこっちの瓶!・・・結界でも張られたか?(鈴木)
- 編集員参加8ヶ月目。この間(かがやけ地球)故、良質の出会いに恵まれました。感謝。(山口)





募集!

本紙で記事を書いてみませんか? 「かがやけ地球」編集員を募集します!

- 活動内容** 情報紙の企画・取材・資料収集・記事作成など
- 対象・人員** 市内在住・在勤又は在学の2016年4月1日現在18歳以上の方、若干名(選考)
- 任期** 2016年4月中旬～2017年3月31日
- 謝礼** 1回発行ごとに7,000円(年4回発行予定)
- 応募締めきり** 2月26日(金)まで

申し込み・問い合わせ

任意の用紙に、
 ①住所 ②氏名(フリガナ) ③生年月日
 ④職業 ⑤電話番号 ⑥編集経験の有無
 ⑦応募理由及び男女共同参画社会への考え(800字程度)を書いて人権男女共同参画課へ郵送またはご持参ください。
 ご持参の場合は、湘南NDビル8階(藤沢市藤沢109-6)人権男女共同参画課へお願いします。

※市議会における予算の議決を前提としています



医療法人社団 藤順会
藤沢順天医院
 神奈川県藤沢市鵜沼橋 1-17-11
 Tel.0466-23-3211

人間ドック 定期健康診断
 脳ドック 婦人科検診



<http://www.fujisawa-junten.or.jp>

かがやけ地球は、市民の編集員さんの企画・運営によって、年4回発行しています。

編集スタッフ 甘粕 保子・有田 留美子・鈴木 悠子・山口 千鶴子

ご意見・ご感想・今後扱って欲しいテーマなどをお待ちしております!

FAX 0466-24-5928
 E-mail jinkendanjyo@city.fujisawa.kanagawa.jp

お任せ下さい!
排水管の清掃・詰まり
 見積無料 **¥20,000**から

コスト半分 / クオリティは2倍以上!

●水が流れにくい
 ●水を流すとゴロゴロ音がする
 ●排水口から臭いにおいが出る

高圧洗浄機でねこそぎ除去!

●詰まりの2大原因、油かすや木の葉を、高圧洗浄機で一掃!
 ●藤沢市の下水管清掃などを委託している排水管清掃のプロが
 おります。マンション・アパートも可、お気軽にお問い合わせ下さい。

株式会社 藤沢市興業公社
 TEL 0466 (22) 9141

“藤沢で愛されて、おかげさまで50周年”

フジサワ名店ビル

営業時間:10時~21時 ☎0120-111-391 〒251-0055 藤沢市南藤沢2番1-1号
www.fujisawa-meiten.com

藤沢・茅ヶ崎・寒川“湘南”がエリアのFM放送局

83.1MHz FM湘南

<http://www.radioshonan.co.jp>
 STUDIO FAX No.0466-29-2121